

可児のあけぼの 旧石器時代の人たち

可児市のじまんとほこりVol. 2 歴史じまん



市HP

問 歴史資産課

内 2422

すごいpoint

- ・可児でも約2万年前に人がいたことが、石器から分かったよ。

◎人類が誕生し、広がるまで

地球上に人類が登場したのは、今から約650万年前です。初期の人類は、大型霊長類と共通の祖先から分かれ、ヒトへと進化してきました。

以前は、猿人^{えんじん}→原人^{げんじん}→旧人^{きゅうじん}→新人^{しんじん}の4つの段階を経て、現在のヒトに至ったとされていました。

しかし、近年では猿人から新人へ一直線の系図は引けず、複雑な進化をたどったと考えられており、旧人と新人の区分もあいまいです。

現在の研究では、アフリカで出現した人類が約7万年前に世界へ広がっていったとされています。

◎約2万年前の石器

可児へ人が来たのは、約2万年前のことです。建物の跡などは見つかりませんが、当時の人々が使用した石の道具(石器)が、下恵土や川合で見つかります。

旧石器時代の人たちには、鉄などで道具を作る技術がなかったため、石や木などを加工して道具を作っていました。

見つかった石器は、石材を割ったり欠いたりしながら、ナイフのように加工したものです。



川合地区で見つかった石器

◎旧石器時代の人々の生活は？

2万年前に可児にいた人々は、食べ物となるものを探して、移動しながら生活していたのかもしれませんが。お米や麦といった作物は作ることをせず、木の実を拾ったり、魚を捕ったり、時には動物を狩って食べていたと考えられています。

◎道具から見られる交流の証し

可児では、黒曜石^{こくようせき}というガラスのような材質の石が見つかりました。黒曜石は可児では採れない石で、長野県などの山にあります。このことから、旧石器時代の可児の人々がいくつかの地域との交流を通じて、長野県の石材を手に入れていたことが分かります。



黒曜石

※本記事は、「可児市のじまんとほこり2025」から、一部編集を加えて転載したものです。

